

当院では、2020年7月1日より新しいMRI機器、Philips Ingenia Ambition 1.5T（フィリップス・インジェニア・アンビション 1.5T）の稼働が始まりました。このMRIは、四国では初の稼働となり（全国では3台目）、先進的な技術が至る所に散りばめられています。

その大きな特徴として「高精細の画像と撮像時間の短縮」と「検査ストレスからの開放」があります。

1つ目の「撮像時間の短縮」からご説明します。

新しいMRIから使用可能となったデジタルコイルと高速撮像技術「Compressed Sensing（コンプレスト・センシング）」を用いて、従来の撮像よりも高精細・高分解能な画質を提供することができる様になり、そのうえ、撮像時間は従来の3分の2以下に短縮することが可能になりました。

これまでは30分以上かかる検査が多く、「検査が長い。」と感じる方もいらっしゃいましたが、単純撮像であれば、ほとんどの部位において30分以内の検査が可能で、定期的にMRI検査を行っている患者さんからは、「早くなったね。」と言われる機会が多くなりました。他にも、緊急性を必要とする救急撮像において、約7分という短い時間で脳梗塞などの急性期疾患の検出が可能になり、患者さんの身体への負担が軽減されると共に、より早い診断ができる様になりました。

2つ目は「検査ストレスからの開放」です。

画像診断センターでは、「どんなに綺麗な画像が撮れたとしても、検査中に患者さんが苦痛・不快感を感じてしまってはいけない」という方針の下、検査前の問診、検査中の声かけ等様々な工夫を行ってきました。しかし、検査中のストレスを解消することができない時もありました。

そこで、その解決策の1つとして、患者さんが横になって頂く寝台のマットレスをPhilips（フィリップス：MRI機器メーカー）とドイツの寝具メーカーが共同開発したComfort Plus Mattress（コンフォート・プラス・マットレス）に新調しました。このComfort Plus Mattress（コンフォート・プラス・マットレス）は、ウォーターベッドの様な寝心地になっており、腰痛があり検査中に仰臥位の困難な患者さんや背中が曲がっておられる患者さんにも痛みなく検査が受けられると好評を頂いております。

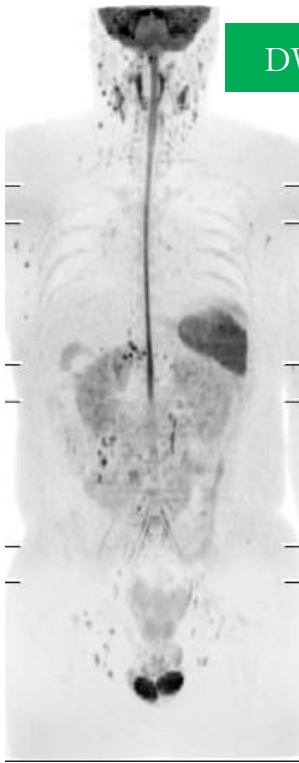
また、東予地区では初となるSensa Vue（センサ・ビュー）という大型TVモニターを検査室内に設置しました。このモニターは、検査中にいろいろな動画（現在は巨大水槽で泳ぐ魚たちの動画）を見ることができ、特に閉所恐怖症のある患者さん、検査の音や振動が気になる患者さんなどに利用して頂いています。（一部の検査では使用できません。）

他にも、静音技術にも力を入れており、特にMRIの特徴である大音量の検査音が怖いと思われる小児の患者さんにも恐怖心を与えることなく撮影が可能となっています。

また、これまで当院ではできなかった、全身の拡散強調画像（DWIBS）や心臓の検査にも対応が可能となり、当院で受けられるMRI検査の種類も多くなりました。

これまで、MRI検査に不安を感じていた患者さんにも安心して検査を受けて頂きたいという思いからこのMRIを導入しました。詳しい検査内容や気になる点は気兼ねなく画像診断センターにお問い合わせください。

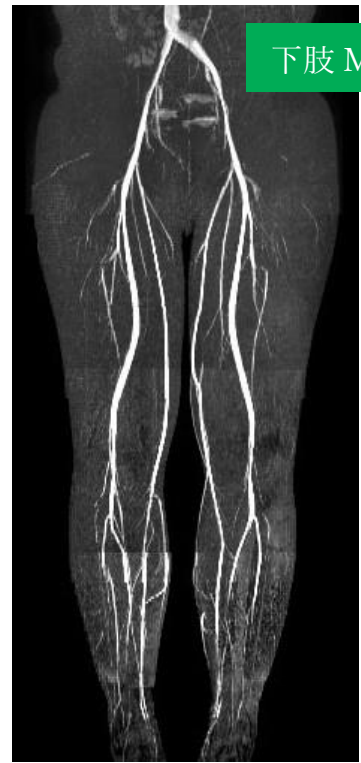




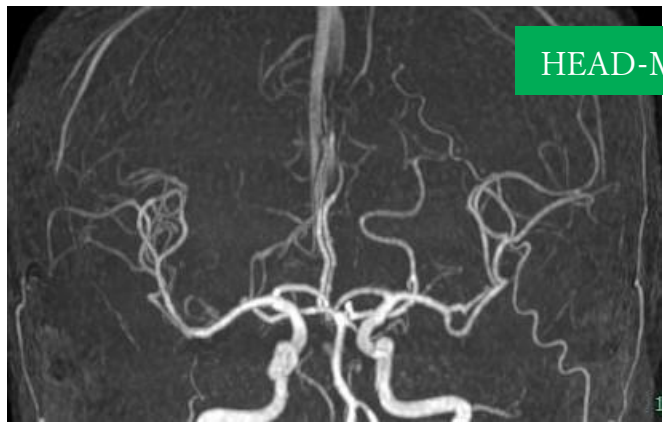
DWIBS



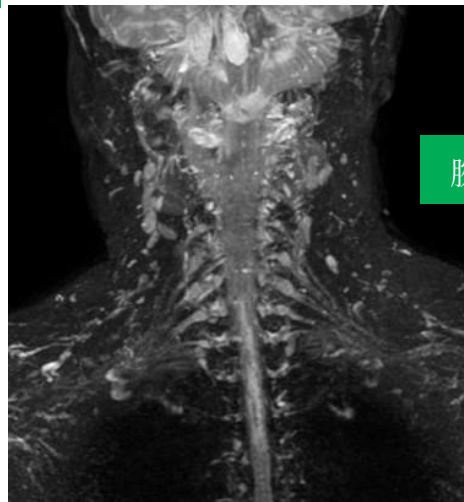
下肢 MRA



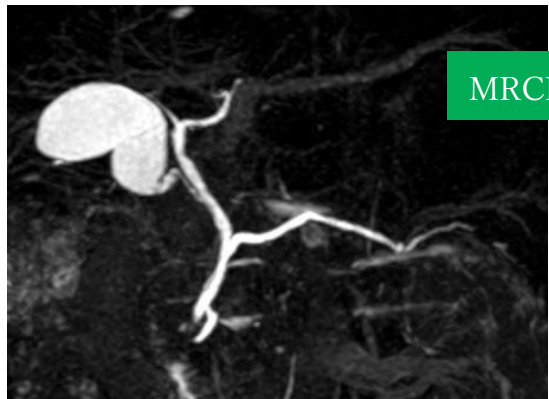
下肢 MRV



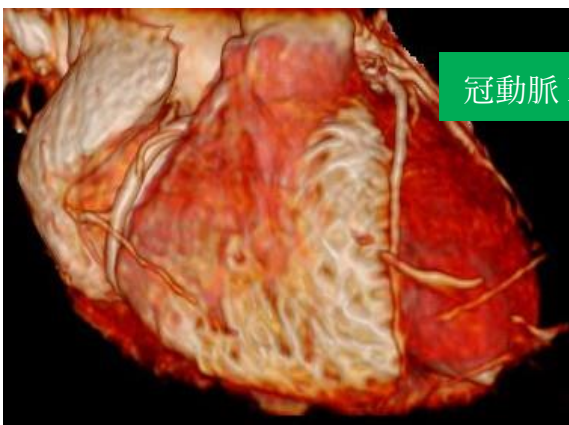
HEAD-MRA



腕神經叢



MRCP-MIP



冠動脈 MRI



Knee